

2012年 2月 22日

日本学術会議 総合工学委員会

連携会員 的川泰宣、藤井孝蔵

宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所

所長 小野田淳次郎

## 宇宙利用シンポジウム(第28回)について

宇宙環境を利用する科学研究の成果を研究者のあいだで広く討論する場として、宇宙利用シンポジウムが毎年開催されています。全国の科学者の提案を受けて研究を進めるために宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所(JAXA/ISAS)において研究チームが組織されていますが、科学者が宇宙に関連する研究計画を提案し、関連の研究者と議論することにより、要蔵をまとめたり、研究の方針や戦略を策定するのに、宇宙利用シンポジウムは大きな役割を果たします。新たに研究チームを提案するには、このシンポジウムでの課題の提起が強く望まれます。国際宇宙ステーションでの日本の実験運用が本格的に開始され、科学的成果が実りつつあり、また新しく定められた宇宙基本計画を実施していく体制が整えられようとしています。微小重力や地球圏外環境など宇宙環境を利用する科学とその周辺の現況について情報を共有し、それぞれの研究分野の学術的意義を確かめ、将来展望を広く研究者の間で論議されることを期待しています。

物質科学・基礎科学・生命科学および関連する宇宙環境利用科学の研究分野を対象として、宇宙利用シンポジウム(第28回)を2012年1月23日(月)、24日(火)の2日間にわたり、日本学術会議で開催しました。演題を公募したところ多数の申し込みがありました。シンポジウムでは82題の講演発表があり、のべ185名の参加がありました。宇宙に関連する材料科学・基礎科学・生命科学分野の研究について組織されているワーキング・グループやリサーチ・チーム(WG/RT)による活動の成果、それを元にする宇宙実験の構想をはじめ、地上研究や宇宙実験テーマなどの成果・進捗、さらに新たな領域・課題の提案が発表され、これらについて真摯な学術的討論がなされました。

発表論文をまとめ、Space Utilization Research 28巻として刊行します。宇宙利用に関連する諸科学の展開に本発表論文集が参考となれば幸いです。